

## 岩野田北小学校学校運営協議会（コミュニティ・スクール）

|        |                |      |     |
|--------|----------------|------|-----|
| 対象学校名等 | 岐阜市立岩野田北小学校    | 対象学年 | 全学年 |
| 支援活動内容 | 地域住民による教育活動の支援 |      |     |

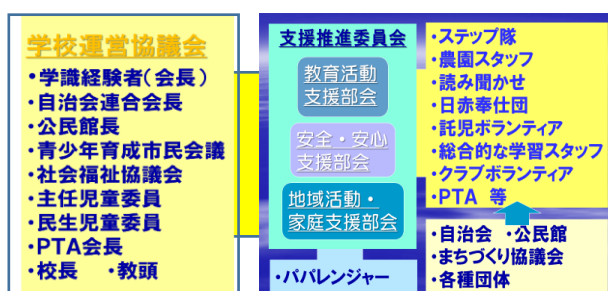
### 活動の願い

『ふるさとを愛し、誇りをもって行動できる栗野の子を育てる。』

住民は子どもたちに「ふるさと栗野」という意識をもたせたい、地域のつながりをつくりたいという願いをもっている。学校は学校生活を「心に残る豊かで楽しいもの」とするために、「地域の協力を得ながらの体験活動」や「児童の自主的活動」を仕組み、陰で支える姿（地域の人や児童）・思いを視点にして「感謝の気持ち」を育みたいという願いをもっている。これらの願いを受け、コミュニティ・スクールとしての活動を始めて7年目となる。

### コーディネーターの関わり方

6年間の取組の成果と課題を受け、「ふるさと栗野」という視点で、活動を企画・整理した。各関係団体の代表が支援推進委員会に所属するようにし、事務的な連絡は教頭、新たな団体や地域住民等との調整はコーディネーターが担当するようにしたことで、組織的な動きができ、負担が軽減されている。



### 活動の工夫や効果

【地域との活動 新規事業を中心に】

#### (1)「水源を守る水質調査」(環境学習としての教材化)

校区で椿洞産業廃棄物不法投棄事件が発覚して12年、終結宣言から3年が経ち、平穏が戻ってきている。校区の自治会が中心となって国や市にはたらきかけて解決につなげてきた経緯がある。中心となって運動をすすめてきた人達は、現在もその活動を「現場から校区(水源地)に流れこむ原川の水質調査」という形で毎月継続している。事件は「負の遺産」であるが、その解決に取り組み、いまでも続けている人々の営みは「地域の財産」であり、関係者の協力を得て、教材化の取組を始めた。



【現地から校区を見る】

#### (2)「地域と一緒に防災訓練」(学校防災教育と自治会活動の連携)

災害に備えて体験活動や啓発をするとともに、少しでも地域の人との顔のつながりができるように、自治会と協力して「防災訓練の日」を企画した。校区では「水防団・消防団・日赤奉仕団」等による地域を支える活動が熱心に行われているが、なかなか認知されていない。体験だけに終わらぬよう「地域を支える人の営み」が具体的にわかるよう工夫をした。



#### (3)「岩野田北小農園」(様々な体験を中心とした地域の人とのふれあい活動)

大規模な学校農園を開設した。初年度はサツマイモの栽培を行い、児童は「苗植え」「水やり」「収穫」「収穫祭」の4つの活動に参加した。その場だけの参加にならないよう、準備の状況(地域住民の協力の様子)等を常に映像ニュースで全校児童に知らせ、「見えない部分」を見せることに努めて「地域の人への支え」「感謝の思い」を意識させた。収穫祭は1100個のやきいもを作り、下級生が感謝の思いを込めて上級生の分も準備した。粃殻燻炭づくりでやきいもを行ったため、水田の田植えから稲刈りまでの学習も同時に進めた。一年を通して、多数の地域の人々と継続的に交流ができたことが成果である。